

## ■ 手蓑の由来

江戸時代知覧の領主から急ぎの手紙を託された家臣が、ちょうどこの峠で雨に降られ立ち往生していました。困った家臣は、生えていた茅を編んで蓑を作り無事手紙を届ける事ができました。この話を聞いた領主が、この地に「手蓑」の名を与えたという伝説があります。ほかにもテンノと発言することから「山頂を表す天」から天野で、それを表記するとき「手蓑」となったのではないかと、という説もあります。

## ■ 知覧茶はここから始まった



江戸時代の手蓑は、知覧島津氏の軍役地で杉の美林があり、手蓑杉といわれていました。明治初期にその杉をことごとく伐採し、土地は手蓑の人に払い下げられ、明治5年頃お茶が植えられました。ところが発育が良好で品質のよいお茶ができたことから、町外から技術者を

招き本格的に茶園の拡大に努め、釜炒番茶の製造を行ったといわれています。令和5年の農林水産祭においては、後岳北の柳川製茶が天皇杯を受賞しました。

(写真:知覧庁舎に天皇杯を展示したときのもの)

## ■ 南薩の製鉄王

江戸時代後半から明治初頭にかけて、池之内の赤崎休右衛門が、この地で盛んに製鉄を行いました。原料となる砂鉄は頰越の矢越の浜から馬で運搬しました。炉は約1.2m四方、高さ約5mほどの高炉状のもので、自然の切石を用いて築き、その上から砂鉄と木炭を交



互に入れて製鉄をおこなっていた。赤崎休右衛門の業績は拡大し「薩摩の製鉄王」としてその名が知られました。それを物語る当時の水路跡や鉄滓(作業時に出る不純物)が残っています。

# 手蓑地区 地域の「お宝」マップ

1 旧知覧街道境界標  
2 後岳の茶碑  
3 銀山跡  
4 ガンコツ水(岸河内の水)  
5 旧国道・里程標  
6 石橋  
7 ホソノ神様  
8 知覧節歌碑  
9 手蓑の由来  
10 知覧節発祥の地碑  
11 知覧茶モニュメント  
12 塔之尾(五輪塔)  
13 村元山神  
14 忠魂碑  
15 仏石  
16 旧手蓑小学校跡  
17 手蓑小学校閉校記念碑  
18 水神  
19 池之内河内製鉄遺跡  
20 山神(池之内河内)

## 知覧茶発祥の地



白岳から見た知林ヶ島・魚見岳(指宿市)



白岳から見た手蓑



高台から見た後岳



上空から見た池之内河内

- 1 旧知覧街道境界標
- 2 後岳の茶碑
- 3 銀山跡
- 4 ガンコツ水(岸河内の水)
- 5 旧国道・里程標
- 6 石橋
- 7 ホソノ神様
- 8 知覧節歌碑
- 9 手蓑の由来
- 10 知覧節発祥の地碑
- 11 知覧茶モニュメント
- 12 塔之尾(五輪塔)
- 13 村元山神
- 14 忠魂碑
- 15 仏石
- 16 旧手蓑小学校跡
- 17 手蓑小学校閉校記念碑
- 18 水神
- 19 池之内河内製鉄遺跡
- 20 山神(池之内河内)

令和7年3月南九州市文化財課